サンマ

北太平洋

主な漁業と漁期

定置網：10月～翌年1月

生　態

落語「目黒のさんま」、佐藤春夫の詩「秋刀魚の歌」でも有名な大衆魚で、秋の味覚の代表格です。

●分布・回遊

日本海・オホーツク海、北太平洋の亜熱帯海域から亜寒帯海域にかけて広く分布します。

5～8月に北上して、黒潮・親潮移行域北部・亜寒帯水域で索餌し、8月中旬以降に南下して、冬季に産卵のため移行域・黒潮前線域・亜熱帯域に達します（右図）。

●産卵期・産卵場

産卵期は長く、9月から翌年6月にわたります。

主な産卵海域は、秋季及び春季が黒潮・親潮移行域、冬季が黒潮～黒潮続流域と考えられています（右図）。

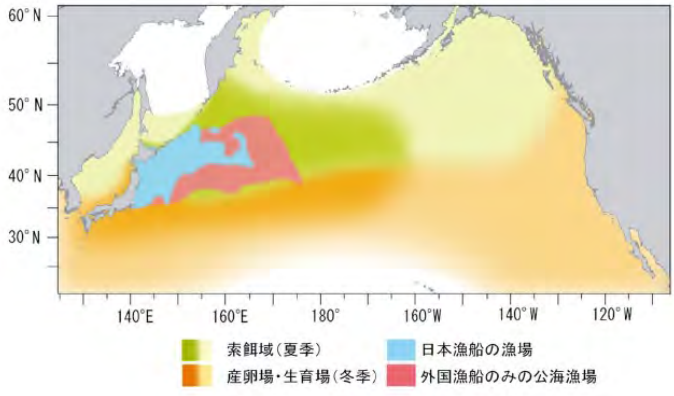
●成長・成熟

寿命は約2年で、一般的な漁獲サイズである体長30cmに達するまで約1年かかります。

0歳で一部が成熟し、1歳ですべて成熟します。

●食性

カイアシ類やオキアミなど、動物プランクトンを捕食します。

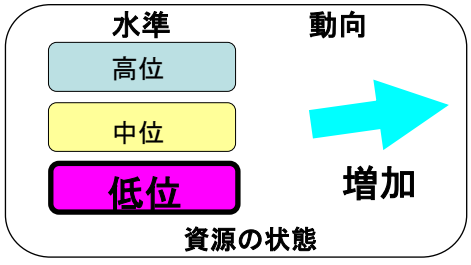


サンマの分布域（索餌場と産卵・生育場）と日本漁船及び公海における外国漁船の主漁場位置

（国研）水産研究・教育機構Webサイトより引用

漁　業　・　資　源　動　向

【資源】



1　北太平洋のサンマは高度回遊性魚類として北太平洋漁業委員会（NPFC）が資源管理を行っています。

2　近年の資源量は僅かに増加したものの、歴史的低水準を維持しています。

3　低迷しているサンマ資源では、2025年の漁獲量をサンマ分布域全体で20.25万トン、NPFC条約水域でTACを12.15万トンに制限しているほか、遠洋漁業国・地域による許可隻数の増加の抑制、公海で操業する漁船へのVMS設置義務及び小型魚漁獲の抑制のため6～7月における東経170度以東の操業禁止などの管理措置が行われています。

《国が公表している「資源の現状」へのリンクはこちら》
要約　https://kokushi.fra.go.jp/R07/R07_82S_SAP.pdf
詳細　https://kokushi.fra.go.jp/R07/R07_82_SAP.pdf

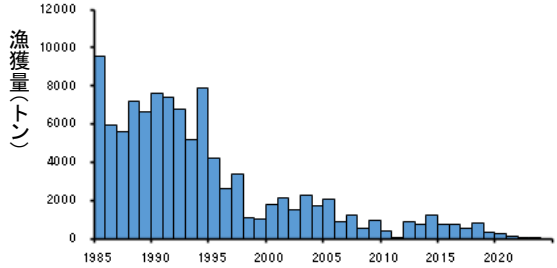
【漁業】

1　秋～冬に南下するサンマを狙う棒受網漁業の漁場は、8月に北海道東部沖～千島列島沖に、9月下旬～10月上旬に三陸沖まで南下し、11～12月には常磐～房総沖に達します。

2　この海域に出漁する静岡県の棒受網船は最盛期には50～100隻程度ありましたが、現在はありません。

3　伊豆半島東岸の定置網には、南下回遊してきたサンマが秋から冬にかけて入網します。

4　静岡県内の漁獲量は1996年以降減少していますが、これは主に棒受網漁船の減少によるものと考えられます。2024年の漁獲量は0トンでした。



静岡県におけるサンマの年別漁獲量
（漁業・養殖業生産統計年報より作成）

担当者の一言：伊豆地方では南下してきたサンマを使った丸干しやサンマ寿司が名物です。

問合先	静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科　054-627-1817